

QOL改善薬としての漢方

—タキサン系抗癌剤の副作用と慢性骨盤痛に対して—



佐藤 泰昌 先生

岐阜県総合医療センター 産婦人科

1995年 岐阜大学医学部卒業
2000年 岐阜大学大学院医学研究科修了
同年 損斐厚生病院 産婦人科
2002年 日本東洋医学会漢方専門医・指導医
2005年 岐阜県総合医療センター 産婦人科

はじめに

抗癌剤による副作用である筋肉痛や末梢神経障害は、重度の場合は、抗癌剤による治療継続が困難になることも考えられる。また、子宮内膜症などによる骨盤痛は治療に難渋することも多い。このような症例に対して、漢方薬は自律神経を介しQOLを改善させる作用が期待できる。今回、両者に対し漢方薬が著効した症例を報告する。

症 例

【症例1】 パクリタキセル投与後の筋肉痛、末梢神経障害

症 例：51歳 女性

主 訴：抗癌剤投与後の筋肉痛、しびれ感

現 病 歴：本症例の現病歴と東洋医学的所見を図1に示す。TC療法2クール目の施行にあたり、筋肉

図1：現病歴と所見

1経妊、1経産、161cm、41kg

- 現病歴**
- ・ 卵巣癌Ⅲcのため、子宮付属器悪性腫瘍手術施行。
 - ・ 術後3週間後に、パクリタキセル175mg/m²＋カルボプラチン AUC6 (TC療法) 1クール目施行
 - ・ 投与2日後より筋肉痛 (VAS 95)、5日後より足のしびれ感 (VAS 61) が出現し、筋肉痛は、臥床していなければならない程であった。

VAS: Visual analogue scale

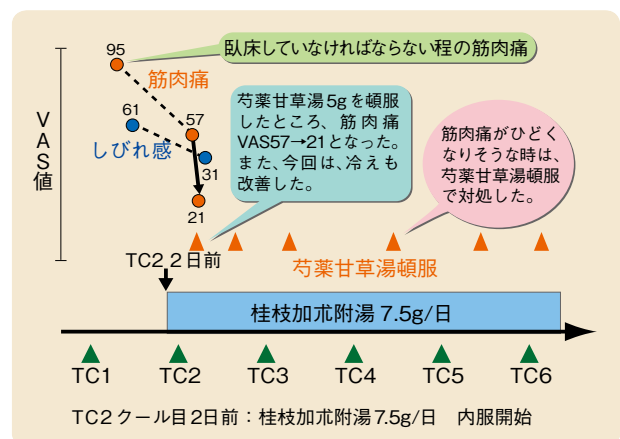
東洋医学的所見

脈診：細
舌診：歯痕(+)
腹診：振水音あり、小腹硬満(±)、
冷え症あり、もともと胃が弱い

痛やしびれ感を何とかしてほしいとの訴えがあった。

経 過：TC2クール目2日前より桂枝加朮附湯内服開始した。TC2クール目数日後に、筋肉痛 (VAS 57) と足のしびれ感 (VAS 31) が出現したが、前回と比べ症状は軽減した。しかし、筋肉痛がまだ強かったため、芍薬甘草湯を頓服したところ、筋肉痛はVAS 21となった。同時に、冷えも改善した。以後は、桂枝加朮附湯内服継続しながら、筋肉痛がひどくなりそうな時は、芍薬甘草湯を頓服することで、1クール目のようなひどい筋肉痛やしびれ感は出現しなかった(図2)。

図2：治療経過



考 察：パクリタキセル使用ガイドによれば副作用対策として、痛みに対しては芍薬甘草湯の継続投与やNSAIDが、末梢神経障害に対しては牛車腎気丸の継続投与やグルタミンが推奨されている。しかし、それでは効果不十分な場合や副作用対策薬としての漢方薬による二次的な副作用も懸念される。それに対し、桂枝加朮附湯は1剤で両副作用に対し効果が期待でき、さらに胃腸にも優しいため継続投与も可能である。したがって、パクリタキセル投与後の筋肉痛や末梢神経障害に対しては、桂枝加朮附湯継続投与と芍薬甘草湯頓服が有用である(図3)。

図3：パクリタキセル使用ガイド／副作用対策

痛み(関節痛・筋肉痛など) ← 芍薬甘草湯の継続投与やNSAID
末梢神経障害 ← 牛車腎気丸の継続投与やグルタミン

しかし、効果の少ない場合もあるし、それ(副作用対策薬)による副作用もある。

- ・芍薬甘草湯は継続して内服すると、偽性アルドステロン症(低K血症など)をおこしやすい(元来、芍薬甘草湯は長期継続投与するものではない)
- ・胃が弱く、薬剤性の悪心・嘔吐がある患者に対し、地黄の入った牛車腎気丸は投与しづらい(胃腸症状が悪化する可能性がある)

桂枝加朮附湯(桂枝・芍薬・生姜・大棗・甘草・朮・附子)

- ・芍薬・甘草と附子が入っているため、1剤で両副作用に効果がある
- ・芍薬甘草湯の頓服効果を高める
- ・比較的胃に優しい漢方薬で、継続投与可能である

【症例2】 子宮内膜症による骨盤痛

症 例：38歳 女性

主 訴：骨盤痛

現 病 歴：本症例の現病歴と所見を図4に示す。

図4：現病歴と所見

0 経妊、164cm、50kg、月経整、月経困難症あり

現病歴 近医産婦人科にて、急激に起こる下腹部痛(月経とは無関係)に対して、子宮内膜炎の診断で、抗菌薬と鎮痛剤の処方を受けたことが数回あった。

最近になって、症状増悪傾向にあるため、当科初診。初診時は、非常に神経質そうな表情で、様々な質問をしてきた。

婦人科的所見

子宮圧痛なし CRP 上昇なし
超音波上はごく小さなチョコレート嚢胞あるのみ

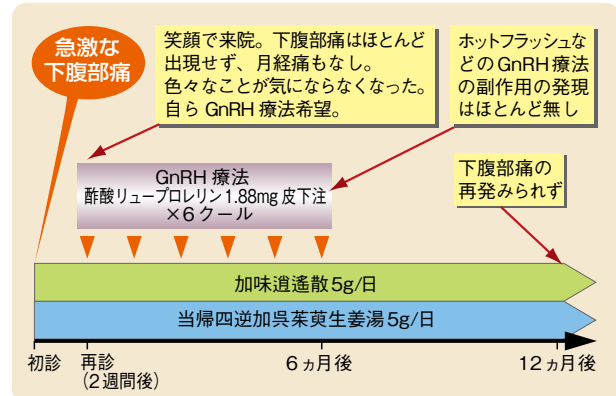
東洋医学的所見

脈 診：細
腹 診：胸脇苦満(±)、小腹硬満(+) 冷え症あり

経 過：子宮内膜症に対するホルモン療法であるGnRHアゴニスト療法を勧めたが、副作用がこわいとのことで、当帰四逆加呉茱萸生薑湯と加味逍遙散を投与開始したところ、4週間後には笑顔で来院し、下腹部痛はほとんど出現しなくなった。不安がなくなったためか、GnRHアゴニスト療法を自ら希望され、以後、酢酸リュープロレリン1.88mg皮下注を6クール施行。その間、両剤を内服していたためか、ホットフラッシュなどの副作用はほとんどなかった。GnRHアゴニスト療法終了後半年以上経過しているが、下腹部痛の再発はみられていない(図5)。

考 察：当帰四逆加呉茱萸生薑湯は通常、しもやけやレイノー症状などの末梢循環不全に使用されるが、大塚敬節は、「寒冷により症状が増悪する、疼痛は下腹部痛にみられ、つれる、突っ張ることが多い、さらに生殖器に障害を訴えるものが適応」と記述している。このような記述は、まさに子宮内膜症などによる骨盤痛そのものと思われる。本症例のよ

図5：治療経過



うに、冷えのある骨盤痛には当帰四逆加呉茱萸生薑湯が第一選択であり、さらに痛みには精神的な要素が関与していることも多いため、加味逍遙散の併用も効果的である(図6)。

図6：当帰四逆加呉茱萸生薑湯

桂枝 芍薬 生姜 大棗 甘草 (桂枝(加芍薬)湯)
+ 当帰 細辛 呉茱萸 木通
(当帰建中湯+細辛 呉茱萸 木通)

- ・当帰・細辛・呉茱萸により、骨盤内臓器が暖められ、それが、痛みの原因となる腸管などの平滑筋の攣縮状態を弛緩させ、芍薬・甘草の直接の作用とあいまって痛みをとる?
- ・当帰建中湯ベースとも考えることができ、補剤の要素もある
- ・ホルモン療法のように、排卵などに直接影響を及ぼさないため、性成熟期の挙児希望患者には特によい適用になる。不妊症は冷えが関与する場合が多く、不妊症にも効果がある可能性もある。
- ・痛みには、精神的な要素が関与していることが多いため、精神安定作用のある薬剤(漢方)との併用が効果的である

まとめ

パクリタキセル投与後の筋肉痛、末梢神経障害に対しては、桂枝加朮附湯継続投与と芍薬甘草湯頓服、冷えのある慢性骨盤痛には、当帰四逆加呉茱萸生薑湯と加味逍遙散などの精神安定作用のある薬剤で対処するのも、一選択肢であると思われる。

C o m m e n t s

後山：卵巣がんのⅢcに化学療法だけではなく、桂枝加朮附湯を併用するという新しい治療法を紹介していただきました。また症例2では、当帰四逆加呉茱萸生薑湯と加味逍遙散を併用されていますが、この理由をどのようにお考えでしょうか。

佐藤：痛みには精神的な要素が関与しています。それを改善するには加味逍遙散がよいのではないかと考えました。さらに加味逍遙散は、気血のバランスがよく、芍薬と甘草の両方を含みますので、さらによい効果が期待できると思います。

後山：漢方的にもよく考えられた処方で、患者さんのQOLが改善されていることがよくわかりました。